

研究所だより

現在、研究取組み中の一部をご紹介します。

研究テーマ：食料自給率と食料安全保障

昨今、新型コロナウイルスの感染拡大や、ロシアのウクライナ侵攻の影響などにより、小麦や大豆などの穀物価格が世界的に高騰し、日本の食卓も大きな影響を被ったことなどから、食料安全保障における地政学的リスクが顕在化し、平素から不足時における食料供給確保の具体的な方策の検討が喫緊の課題となっています。これまで、食料安全保障に大きな影響を与えるのは、主に気候変動や人口爆発、自然災害、新興国の経済成長と捉えられており、地政学リスクに関してはさほど注視されてきませんでした。また、これまで食料安全保障は経済力で担保できると考えられてきたため、食料安全保障に関しては重要視されてこなかったのが現状です。しかし、地球規模で発生している気候変動や自然災害、パンデミック、軍事的紛争などにより、経済力だけでは食料安全保障は担保できないことが明らかになってきました。

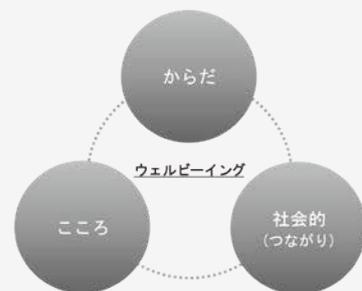
そうした中、国内の農業生産をみると、農家は高齢化と減少をつづけ、それに伴い耕作放棄される農地が増加するなど脆弱化は著しく、我が国の食料自給率をカロリーベースで見ると、2023年では38%と先進国の中でも最低の水準となっています。

これらのことを踏まえ、今後も常態化が予想される食料安全保障リスクに対し、低水準で推移する食料自給率の現状を踏まえ、わが国の食料安全保障について考察します。

研究テーマ：ウェルビーイングに関する研究

企業のあり方や個人のワークライフバランスが見直されるなか、「ウェルビーイング (Well-being)」という言葉が注目されています。「ウェルビーイング」という言葉が初めて登場したのは、1946年に署名された「世界保健機関 (WHO) 憲章」で、「健康とは、完全な肉体的、精神的及び社会的福祉 (Well-being) の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と示されています。

2015年には、持続可能な開発目標 (SDGs) にも組み込まれ、世界的に関心が高まるなか、日本においても、2021年、政府の「成長戦略実行計画」において、実現すべき目標のひとつとして示されました。今回、ウェルビーイングが注目される社会的背景、自治体や企業等の取組事例について調査し、今後の展望について考察したいと思います。



メールマガジンのご案内

当研究所では“WISEメールマガジン”を発行し、HPの更新状況や、講演会・セミナー等のご案内などをお知らせしております。登録ご希望の際は、下記アドレスの「WISEメールマガジン」から、必要事項をご記入の上、お申し込み下さいますようお願いいたします。

URL : <http://www.wsk.or.jp>

賛助会員募集中

- 会費：1□ 2万円(年)
- 特典：刊行資料の配付、調査・研究成果の提供、講演会・セミナー等への参加、情報提供等